

## 研究講習事業報告

学発番号：学20-026

事業名：令和2年度京臨技病理細胞検査精度管理報告会ならびに 病理細胞検査研修会（Web研修会）

日時：2021年2月7日（日） 14：00～16：30

場所：オンライン

主 題 1：病理検査精度管理報告と解説

講 師 1：竹腰 友博 技師（京都市立病院）

主 題 2：細胞検査精度管理報告と解説

講 師 2：吹谷 美佳 技師（京都大学医学部附属病院）

参加数：総数：31名（京臨技会員：30名）

報告者：久保 喜則 技師（京都第一赤十字病院）

### 以下、講演内容など

前半は、精度管理結果報告と解説を行いました。病理検査は、アミロイド染色を実施しました。未染色スライドを配布し各施設で染色された標本を回収し、判定はWhole slide imaging画像をPCに取り込み、研究班員と参加希望施設代表者がオンラインで施設名を伏せて評価しました。20施設中17施設がA評価、3施設がB評価、C・D評価該当施設はなく良好な結果でした。過去（2012年、2013年）に行ったアミロイド染色の精度管理により各施設の染色改善が行われたことや、コンゴー・レッド染色より染色手順が比較的簡易なDFS染色を実施している施設が増えたことが要因と考えられます。細胞検査では、日常的業務にて遭遇する可能性の高い症例や特徴的な細胞所見を有する症例15例と、知識の確認・向上が目的の教育的症例（評価対象外）を2問の計17例を出題し、提示写真から回答するフォトサーベイを実施しました。正答率の基準を70%とし、良悪の判定と組織型の推定が出来る事を目的としました。参加施設は23施設で、2問が正解率56.5%と60.9%で評価基準を下回ったため評価対象外とし、平均正解率が99.3%、施設別正答率は85%以上、評価対象設問の全体正解率は99.3%で良好な結果と考えます。京都府における状況を把握することができました。今後も京都府下の染色技術の習熟と細胞診判定の向上に努めていきたいと思えます。

後半は、「顕微鏡の基礎」として動画再生による研修を企画していましたが、通信環境に安定性を欠き、参加者の端末で再生閲覧できず、復旧の目途も立ちませんでしたのでやむを得ず中止となりました。今後も動画研修の機会は考えられるので、十分にリハーサルを行ったうえで実施して行きたいと思えます。